

令和7年度 練馬区立中村中学校 学校経営方針・経営計画

校長 井上 春好

1 教育目標 心身ともに健康で自主的な人間の育成を目指す

- 一 **自律性**を伸ばす 二 **実践力**を身につける 三 **連帯感**を深める

【学校スローガン】

「**凡事徹底**」 … あたり前のことを 自ら 一生懸命やり続ける 【自律性・実践力】

「**人のために**」 … 人のために行動できる 共に支え・学び・高め合う 【連帯感】

2 目指す学校・生徒の姿 『伝統の継承・中村中生としての誇りと自信』

(1) 生徒にとって 「安全で楽しく、明日が待たれる学校」

- ① 一人一人が大切にされ、人権や生命が尊重される学校
- ② 一人一人の可能性を伸ばす学校
- ③ 共に支え・学び・高め合う学校

(2) 保護者にとって 「安心と信頼をもって、子供を登校させることのできる学校」

(3) 地域とともに 「共に歩み、協力を得られる学校」

3 学校経営の基本方針（教師の姿）

(1) 「人権尊重、生命尊重の心を育てることを基盤とした教育活動の実践」

すべての教育活動において、自他の人権尊重、生命尊重の心を育てる。生徒一人一人に目を向け、声を掛け、手を掛け、温かさや厳しさをもって指導にあたる。

是は是として認め褒め、非は非としてしっかり教える。強い正義と高い規範意識を身につけさせる。

<令和7年度重点>

『成功体験の積み重ね、褒めて定着させ、さらに発展させる』

- ・ 褒める際のポイント 「すぐに」 「個に合わせ」 「具体的に」
- ・ 子供は教師の姿を見て育つ。教師の言葉がけで子供は成長する。

(2) 「<凡事徹底><人のために>を意識させた教育活動の実践」

すべての教育活動において、教育目標・学校スローガンを意識させた教育活動を実践するとともに教職員も模範を示す。

<令和7年度重点>

『<凡事徹底><人のために>から学校教育目標の実現へ』

- ・ 「自ら進んで考え、学び律することのできる生徒」「善悪の判断ができ、行動が伴う生徒」「自分のことを大事にし、友人を大事にし、連帯感を高められる生徒」を育てる。
- ・ 学級活動、委員会活動、生徒会活動、部活動等の具体的な行動指針として教育目標・学校スローガンを反映させる。

(3) 「一人一人の状況（学習、自立）に応じた自立へ向けた適切な支援」

生徒の学びを保障し、学習指導要領のねらいを踏まえ、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を展開し、生徒一人一人に「生きる力」を育む。そして、変化の激しい時代に、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動できる力を身につけさせる。

<令和7年度重点>

『教育のユニバーサルデザイン』 3つの視点

- ・ どれ一つ欠けても、教育のユニバーサルデザインは成り立たない。
 - ◇ わかりやすい授業（環境・展開・説明の工夫、個人差・特性への配慮 他）
 - ◇ 集中できる教室環境（わかりやすいルール、掲示物・刺激の整理 他）
 - ◇ 支え合う・学び合う仲間（学級のやさしい雰囲気、教師の声掛け 他）
- ・ 「自学自習」のすすめ
- ・ 不登校生徒および保護者への支援、特性のある生徒および家庭環境への支援
- ・ 特別支援教育校内委員会等による生徒理解、外部機関との連携と役割分担

(4) 「ユネスコスクールとしての取組の充実」

ユネスコの理念や目的を学校のあらゆる面（組織運営や授業、プロジェクト、経営方針等）に位置づける。

<令和7年度重点>

『生徒の心の中に平和のとりでを築く』

- ・ ユネスコの理念や目的にそった取組の充実を図る。

(5) 「学校組織として教育にあたり、一層の教育効果を上げる実践」

一人一人の教職員の持ち味や特性を最大限に発揮しながら学校組織として教育にあたり、一層の教育効果を上げる。一人一人が誠実に職務にあたり、組織的、計画的、意図的に地道な教育活動を積み上げることにより、生徒、保護者、地域から信頼される公立学校を目指す。

<令和7年度重点>

『職場のバランスを大切にした教職員の連携』

- ・ 組織で最も大切なことは、一人一人のバランス感覚です。

『課題解決のための積極的な提案』

- ・ 分掌、学年、教科、個人等から、課題解決のための具体策の提案
- ・ やりたいことの実現、やりがい、楽しさ、自信

(6) 「保護者や地域に信頼され、愛される学校」

生徒や保護者、地域の心情に配慮した丁寧な説明と話し方を心掛け、信頼関係を築いていく。特に、いじめや不登校、特別な支援が必要な生徒については、組織として迅速に対応する。

<令和7年度重点>

『子供につながる保護者支援』

- ・ どうしてよいか悩み、困り、その不安を一人で抱えきれない保護者に寄り添いながら、理解者、支援者となり、連携をとることで、子供支援につなげていく。

4 令和7年度の達成目標と具体的方策

- ◎ 下記の項目の具体的な方策を、「教科指導」「生活指導・進路指導」「特別活動」「能力開発」「キャリアプラン」に分けて、自己申告書（当初申告）として計画を立ててください。

(1) 学力向上・体力向上

☆ 個別最適な学び（個に応じた指導）＋協働的な学び（互いに高め合う）
＝ 主体的・対話的で深い学び へ

① わかりやすい授業 多様な授業

- 学習指導要領の主旨にそった授業
（主体的、対話的で深い学び、3 観点をバランスよく育成、指導と評価の一体化）
- 教育のユニバーサルデザイン
 - ◇ わかりやすい授業の工夫
（中村中メソッド、環境・組み立て・説明の工夫、個人差・特性への配慮 他）
 - ◇ 集中できる教室環境
（生活のわかりやすいルール、パターン化された環境、掲示物・刺激の整理 他）
 - ◇ 支え合う・学び合う
（自分の考えをもつ 対話を通した深い学び 他）
- 学習の定着を図る指導の工夫
（学習形態の工夫：少人数指導、グループ学習、リトルティーチャー 他、
繰り返し・振り返り学習、個に応じた指導、小テスト、単元テスト、課題 他）
- ICT を活用した効果的な指導 （デジタル教科書、タブレット端末 他）
- 読む力、書く力、話す力、聞く力を育てる指導 （授業、作文、朝読書 他）
- 体育的活動の充実 （授業で体力向上、運動会・部活動の充実）

② 自学自習のすすめ・学習支援の充実

- 家庭学習の定着を図る取組
- 予習・復習方法の具体的な提示
- 補習学習（定期考査前、長期休業中）、個別指導
- 検定受験（英語、漢字）

(2) 健全育成・豊かな心の育成

☆ 自分自身を大切にし、人のために行動できる生徒の育成
互いを支え合い、学び・高め合える集団の育成

① 学校スローガンの実現

- 「凡事徹底」「人のために」
- 教育のユニバーサルデザイン ◇ 支え合う・学び合う
(学級のやさしい雰囲気、安心して学べる「失敗しても大丈夫」、教師の声掛け 他)

② 不登校、登校しぶりの生徒および保護者への丁寧な対応

- 『自立に向けた一人一人への適切な支援』＋『子供につながる保護者支援』
(特別支援教育校内委員会での情報交換および検討、外部機関との連携・役割分担、定期的な家庭訪問、安否確認、長期休業日後の指導の徹底)
- 校内別室支援室
(年間を通じた開設、一人一人の状況に応じた支援)

③ いじめ・問題行動の未然防止、早期発見・組織対応

(指導の徹底・道徳との関連、いじめ対策委員会、いじめアンケートの実施)

④ 指導、対応の充実のために

- 生徒および保護者理解 [特性、不登校、問題行動、性格、多様性、家庭環境 他]
(学年会、生活指導部会、特別支援教育校内委員会、いじめ対策委員会、学校保健委員会、外部機関との連携と役割分担)
- 成功体験の積み重ね、褒めて定着させ、さらに発展させる
(褒める際のポイント 「すぐに」 「個に合わせ」 「具体的に」)
- 特別支援教育の推進
(特別支援学級と通常学級の交流推進、特別支援教室での個別指導、個別指導計画・学校生活支援シートの作成と活用、校内委員会の充実、研修他)
- 3年間を見通した指導 学級経営・自治活動の充実、リーダーの育成
(基礎を丁寧に教え、その後は自立・自治を目指す)

5 学校を保護者や地域が「信頼し、愛し、誇れる場」とするために

◇ 地域に根ざす、開かれた学校 ◇

(1) 保護者や地域社会の力を学校にいかす

- ① 信頼関係を築くために、相手の心情に配慮した丁寧な説明と話し方を心掛ける。特に、いじめや不登校、特別な支援が必要な生徒については、組織として迅速に対応する。
- ② 保護者会、学校公開、学校行事等の様々な機会を活用して、日頃の教育活動をわかりやすく伝える。
(生徒や保護者、地域のニーズにそった発信や教育活動の工夫が必要)
- ③ 学校だよりや学年だより等を通じた学校からの情報提供に努めるとともに、学校ホームページの充実を図る。
(生徒の成長した姿、生徒の声、学校のよいところ等、発信力の向上)
- ④ 学校評価を適切に実施し、学校経営の改善・充実にいかす。
- ⑤ 教育活動支援者を積極的に募り、生徒へのよりより指導の充実を図る。

(2) 学校の力を地域社会にいかす

- ① 地域活動に寄与する学校開放を進め、地域社会とともに生徒を育む。
- ② 教職員が関係諸機関等の学校支援団体への理解を深め、適切な連携を図る。
- ③ 地域社会の活動に参加し、地域社会とともに歩む学校を体現する。

6 学校を教職員にとって「働き甲斐のある職場」とするために

◇ やりがい、つながり、生活との調和を大切にする学校 ◇

(1) 教職員としての資質や能力の向上

- ① 生徒や保護者に信頼され、記憶に残る教員に
- ② 学習指導や生徒指導の専門性を一層磨き、校内外の研究・研修への参加を積極的に進め、資質・能力の向上に努める。
- ③ 生徒の先達となるよう人権感覚の向上と人間性を磨く努力を重ねる。
- ④ 学校経営における自己の役割を理解し、校務分掌等の職務を計画的に進める。
- ⑤ 教育公務員として遵法を貫き、サービスの厳正の徹底を図る。

(2) 学校組織の一員としての経営参画

- ① 学校が組織としての機能を発揮し、効率よく分掌を運営するために、教職員間のつながりを意識した校務運営を進める。
(一つの指導や行事を成功させるために、全教職員が同じ意識で取り組む)
- ② 手順、手続きを正しく踏みながら、早めの取組を進めるとともに、適時、適切な報告・連絡・相談に努める。
- ③ 年間を通じて、諸活動の取組について評価を行い、次の実施や校務の改善に具体的に反映させる。
- ④ 事務との連携を適切に図り、計画的な予算執行と円滑な校務運営を図る。
- ⑤ 学校は、事務、用務、施設管理員、調理員、支援員、スクールカウンセラー、相談員等多くの力によって運営されている。お互いの苦勞に感謝し学校運営を進めていく。

(3) 教職員の働き方を見直し、効率的な校務運営と一人一人のライフワークバランス(養育、介護、体調、自己成長 他)の視点をもった学校生活の実現を図る。

7 中期的目標および方策

(1) わかる授業の実践から基礎学力の定着と応用力を高め、進んで学習できる態度の育成

- ① 中村中メソッドを活用した授業から、生徒の興味関心を継続させ、応用力を向上させる。
- ② タブレット端末の効果的な活用と家庭学習の定着を図るための手立てを全学年で年度始めに重点的に指導する。
- ③ 学期毎の振り返りを生かした自主学習の推進、長期休業中・定期考査前の補習等を通して基礎的な学習を充実させ、一層の学力向上を図る。
- ④ 近隣小学校との一貫教育を深めるため、授業交流を行える環境づくりを進める。
- ⑤ 各研修会や教師道場等で学ぶ教員の指導法を校内で共有する研修を実施し、さまざまな授業方法の工夫やICT機器の活用の充実を図る。

(2) 人権尊重を基盤とし、生徒の学校生活の安定と心の伸長・充実

- ① 人権教育の理念である「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めること」をすべての教育活動の中心とする。
- ② 生活指導は、全教職員で共通理解を図り実践していく。
- ③ 生徒には、是々非々の姿勢と寄り添う姿勢をもってあたり、一人一人の生徒理解を深める。
- ④ 教育相談は、年間を通じて保護者との面談を1回以上、生徒との面談を1回行う。
- ⑤ 生徒の心を耕すための体験や講演会を実施していく。
- ⑥ 学級・学年・生徒会活動・部活動等、生徒の輝く場面を多く設ける。
- ⑦ 登校が進まない生徒に対しては、一人一人の状況に応じた対応を行う。

(3) 生徒にとって、安全で楽しく、明日が待たれる学校 保護者にとって、安心して登校させることができる信頼感のある学校

- ① 保護者への連絡は丁寧に行い、きめ細やかな指導につなげる。
- ② 学校の諸活動が、保護者や地域に理解されるように、学校だよりやホームページ等の広報・発信活動を一層進める。
- ③ どの場面においても生徒の生命を最優先にし、自然災害時の校内対応と地域の力となる生徒の育成を図り、避難場所としての機能を地域の協力を得ながら整備を進め、常に改善を図っていく。
- ④ 全校生徒が、本校生徒であることの誇り（中村中の矜持）をもち、自らの自信につなげることができる指導をすべての場面で行う。
- ⑤ 地域連携事業の学校支援コーディネーターの活用と教育の活性化を図る。